

## 松江競馬場跡地における住宅街形成の経緯

岡山大学 学生会員 ○岡 正太郎  
岡山大学大学院 正会員 樋口 輝久  
岡山大学大学院 正会員 馬場 俊介

### 1. はじめに

松江競馬場は、かつて日本全国に数多くあった地方競馬場のひとつである。昭和4（1929）年に第1回の競馬が開催され、その後売り上げの下降などにより昭和12（1937）年に廃止された。現在、この跡地である松江市浜乃木1丁目の住宅街においては、競馬場の楕円形走路が完全な形状で街路として残されている（図-1）。廃止された競馬場は、そのまま放置されているか、公園等の大規模な施設に転用されている例が一部あるものの、競馬場跡地の多くは現在では宅地化されている。その場合でも一般には、区画整理や街路整備など何らかの手が入っているため、その形状を留めていないものが大半であり、松江競馬場跡地のように走路が完全な形状で残されている事例は全国で唯一であると推測される。

そこで本研究では、まず松江競馬場跡地が走路の形状を完全に残している唯一の例であることを明らかにするため、全国の廃止された競馬場の現況について、『地方競馬史』<sup>1)</sup>や地形図、航空写真から調査を行った。また、松江競馬場の建設から住宅街形成に至る経緯について、土地台帳、松江市議会録、松江市役所所蔵の行政資料ならびに『松江市誌』<sup>2)</sup>や『乃木郷土誌』<sup>3)</sup>などの郷土資料を分析し、街路が現在のような形状になった要因について明らかにした。

### 2. 全国の競馬場跡地の現況

#### (1) 全国の競馬場の成立から廃止に至る経緯

日本の競馬の起源は、神社の祭典において奉納や余興のために行われる、いわゆる祭典競馬であるとされている。日本における伝統的な祭典競馬の様式は、数百mの直線形の馬場を用いるなど、現在のような西洋式の競馬とはまったく異なるものであった。

江戸時代末期、開国に際して設けられた横浜の外国人居留地において、居留外国人による西洋式の競馬が行われた。このことに端を発し、各地で日本人による

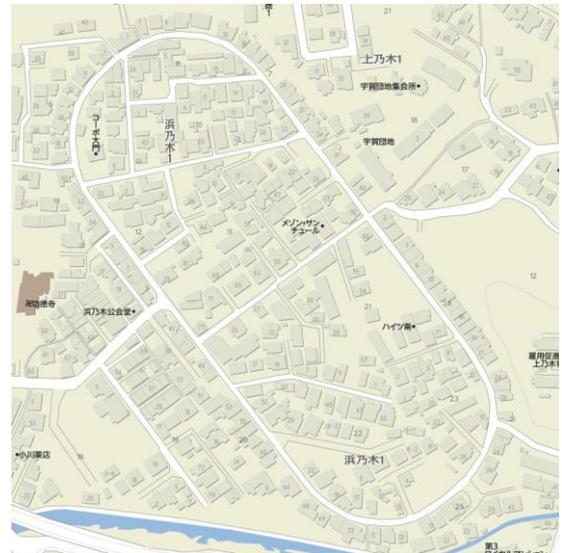


図-1：浜乃木1丁目の住宅街（出典：Yahoo!地図）

西洋式の競馬が行われるようになった。その後、馬券黙認の時代を経て、公認競馬の時代となった。そして昭和2（1927）年の地方競馬規則の公布以降、地方での競馬場設置の気運が高まり、日本全国に数多くの競馬場が設置された。

しかしながら、売り上げの下降や戦争による競馬施行体制の変革等といった様々な要因で、多くの競馬場が廃止されるに至った。

#### (2) 全国の競馬場跡地の現況

全国の競馬場跡地の現況を調査し、走路形状が残っている競馬場について表-1にまとめた。なお、調査は地方競馬規定の公布以降に確認された競馬場及びその前身の競馬場を対象とした。また、跡地が公園、農地となっているものについては対象外とした。今回の調査の対象となった158か所の競馬場跡地のうち、32か所において走路形状の残存が確認された。その内、青森県の青森競馬場など、走路形状が90%近く残っている所も存在するが、完全な形状が残っているのは松江競馬場跡地のみであることが判明した。

### 3. 松江競馬場の設置から廃止までの経緯

#### (1) 松江競馬場の設置

##### a) 設置場所の決定

昭和2（1927）年の地方競馬規則の公布により、島根県においても2か所の競馬場を設置することとなった。その設置場所を巡り、松江、浜田、大社、益田が名乗りをあげ、最終的に松江と浜田に決定した。そして、松江における候補地として、東津田、向島、浜乃木の3か所が挙がり、浜乃木に決定した<sup>4)</sup>。

##### b) 竣工までの経過

松江競馬場の設置に関して、昭和3（1928）年12月11日の松江市会では、競馬場の経営方針、用地買収、観覧席等の各施設、アクセス道路について質疑が行われている<sup>5)</sup>。実際の建設に際しては、用地買収、敷地内の墓地の移転等に手間取り、予定より遅れて昭和4年10月17日に竣工した（写真-1）。なお、完成した競馬場は、1周1,000m、走路幅約16mで、走路に沿った外側に3間幅（約5.4m）の道路が付随しているものであった<sup>6)</sup>。

松江競馬場は島根県畜産組合連合会の運営ではあったが、用地買収、施設の建設に関しては市が行った。用地買収に際しては、楕円形走路の部分とスタンドやチケット売り場等の部分のみを買収し、内側については買収しなかった。このことは、土地台帳の添付地図（図-2）を見れば明らかである。買収部分については、土地台帳の地目が、昭和5（1930）年8月30日に一斉に「田」から「雑種地」へと地類変換されている。

さらに、競馬場走路の内側になる部分の土地は買収されず民有地のままであったことは、土地台帳の地目が「田」のままであることから確認できる。このことに関して、当時を知る地元の古老は、競馬開催中にも走路の内側では稲作が行われていたと証言している<sup>7)</sup>。

#### (2) 松江競馬の開幕から廃止まで

昭和4（1929）年10月18日からの3日間、松江競馬場において第一回の競馬が開催され、その後数年間は経営成績も良好であった。しかし、昭和9（1934）年からは毎回下降線をたどり、戦争による競馬施工体制の変革を控え昭和12（1937）年に廃止となった<sup>8)</sup>。

### 4. 松江競馬場跡における住宅地形成の経緯

#### (1) 戦後の住宅問題

太平洋戦争末期、松江市において、戦火による建物

表-1：競馬場跡地における走路の痕跡

名称	所在地	開催期間	残存率
倶知安	北海道虻田郡	S5年～S13年	50%
日高	北海道日高郡	S3年～S13年	40%
青森	青森県青森市	S7年～S12年	80～90%
旧盛岡	岩手県盛岡市	S2年～H8年	70～80%
酒田	山形県酒田市	T9年～S13年	10%
上山	山形県上市市	S10年～S13年	25%
若松	福島県会津若松市	S5年～S25年	30%
古河	茨城県古河市	S4年～S34年	70%
荒川沖	茨城県土浦市	S3年～S13年	30%
宇都宮	栃木県宇都宮市	S8年～S18年	60%
伊勢崎	群馬県伊勢崎市	S2年～S13年	40%
目黒	東京都目黒区	M40年～S8年	40%
八王子	東京都日野市	S3年～S24年	30%
戸塚	神奈川県横浜市	S6年～S25年	10%
松本	長野県安曇野市	S6年～S31年	10%
岡崎	愛知県岡崎市	S6年～S28年	50%
京都長岡	京都府長岡京市	S4年～S31年	60%
明石	兵庫県明石市	S3年～S13年	20%
淡路	兵庫県南あわじ市	S22年～S24年	20%
奈良	奈良県奈良市	S4年～S29年	60%
紀三井寺	和歌山県和歌山市	S2年～S63年	60%
松江	島根県松江市	S4年～S12年	100%
益田	島根県益田市	S23年～H14年	50%
倉敷	岡山県倉敷市	S4年～S13年	70%
五日市	広島県広島市	S21年～S24年	20%
三津浜	愛媛県松山市	S4年～S30年	40%
春日原	福岡県春日市	S7年～S13年	50%
大村	長崎県大村市	S3年～S13年	30%
山鹿	熊本県山鹿市	S24年～S27年	10%
中津	大分県中津市	S6年～S13年	30%
別府	大分県別府市	S5年～S29年	30%
鹿屋	鹿児島県鹿屋市	S2年～S37年	90%



写真-1：松江競馬場（出典：『乃木郷土誌』<sup>7)</sup>）

の延焼を防ぐ目的で、建物の強制疎開が昭和20（1945）年7月9日から終戦を迎えた8月15日正午まで行われた。この強制疎開により壊された住居は、全壊、半壊合わせて、松江市街地の4分の1にあたる3,187戸に及んだ。そこへ海外からの引揚者約2,000人、戦災などによる他地域からの転入者約2,500人を迎え、厳しい住宅難に襲われることとなった<sup>9)</sup>。

## (2) 住宅問題への対策

このような住宅問題の応急対策として、遊休建造物の住宅化あるいは余裕住宅の反強制的な解放、ならびに松江市緊急住宅対策本部による市営住宅や分譲住宅の応急建設が開始された<sup>10)</sup>。市営住宅は、南田町、東朝日町、西川津町、内中原町、西津田町、古志原町、春日町、比津町、そして浜乃木町（競馬場跡地）などに昭和21年度から毎年建設された（表-2）。昭和21（1946）年2月21日付の島根新聞においても、浜乃木の市営住宅が建設中であるという内容が記載されている<sup>11)</sup>。そして、市営住宅への入居に際しては、入居者の募集が行われており、昭和25（1950）年6月から発行されている『松江市広報』<sup>12)</sup>においても募集要項がその都度掲載されていた。

## (3) 浜乃木市営住宅

### a) 浜乃木市営住宅の建設

浜乃木の競馬場跡地における市営住宅の建設は、昭和21（1946）年度に9棟、22年度に37棟、23年度に5棟、さらにその後も引き続き建設が進められ、最終的に59棟となった。昭和30年代に撮られた競馬場跡地の写真（写真-2）や、昭和30（1955）年に書かれた「公営住宅（木造二種）建設工事案内図、配置図」（図-3）を見ると、市営住宅が楕円形状に立ち並んでいる様子が分かる。土地台帳では、昭和22（1947）年8月10日に一斉に「雑種地」から「宅地」へと地目変換が行われていることが確認できる。

また、競馬場走路の幅とその外周にあった3間幅の道路を足した長さ、現在の宅地と道路の幅を足した長さはほぼ同じであり、このことから市所有の競馬場跡地をそのまま転用して市営住宅が建設されたことが分かる。その結果として、楕円形状に市営住宅が立ち並び、その内側に走路形状の街路が形成されたことが推測できる。

### b) 市営住宅の払い下げ

昭和30年代になると市営住宅の払い下げが順次行われるようになる。払い下げに向けて、昭和31（1956）年7月18日に道路部分と住宅敷地ごとを一斉に分筆され、その後各個人に払い下げられたことが土地台帳から分かる。参考として、浜乃木町字大門縄手の土地台帳および添付地図（図-4）を見ると、当初、一筆であった

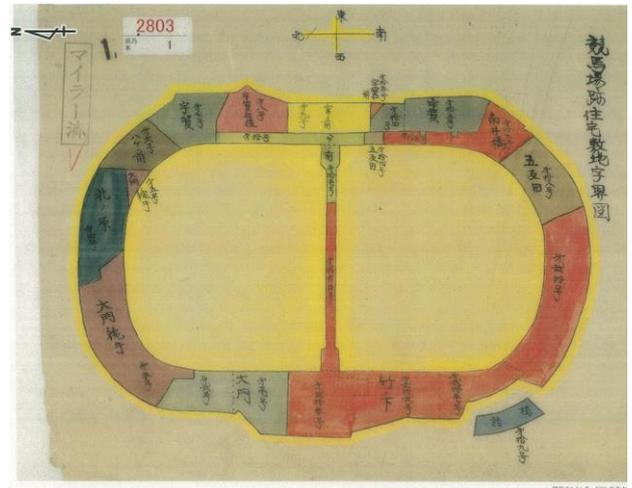


図-2：「競馬場跡住宅敷地字界図」（所蔵：松江地方法務局）

表-2：年度別の市営住宅建設地および棟数

年度別	建設地	棟数	戸数
昭和 21 年度	南田町	4	16
〃	浜乃木町(元競馬場)	9	45
昭和 22 年度	〃	37	49
〃	東朝日町小浜	1	50
〃	東朝日町宮ノ沖	1	50
〃	市内各地分譲住宅	15	15
昭和 23 年度	西川津町	3	42
〃	内中原町	2	4
〃	東朝日町宮ノ沖	4	8
〃	西津田町	8	8
〃	東朝日町宮ノ沖	8	16
〃	浜乃木町(元競馬場)	5	10
〃	古志原町(元兵営内)	8	129
昭和 24 年度	古志原町大塚	15	15
〃	東朝日町小浜	37	37
〃	東朝日町宮ノ沖	8	8
〃	古志原町鍛冶屋坂	1	8
〃	東朝日町小浜	1	46
〃	春日町田原谷	13	20
昭和 25 年度	東津田町長通	11	11
〃	法吉町久米	14	18
〃	東津田町井廻	21	26
〃	西津田町城ノ前	7	10
〃	古志原町鼻曲	8	10
〃	比津町原野	6	10
〃	比津町客田	6	10
〃	西津田町	1	18
昭和 26 年度	東津田町岡	11	11

106番地3は、街路部分（106番地3）を残し、宅地部分の106番地4から12に分筆されていることが確認できる。

## 5. 結論

現在までに廃止された競馬場跡地の現況について調査した結果より、周辺が市街地化された中で競馬場の走路形状を完全に残している例は、松江競馬場跡地が唯一であることが明らかになった。

また、楕円形走路が完全な形状で街路として残った要因としては、まず競馬場の建設に際して、楕円形走路の部分とスタンドやチケット売り場等の部分のみを買収し、走路の内外を買収しなかつたことが挙げられる。さらに、戦後の深刻な住宅問題に際し、早急の市営住宅の建設が求められたため、新たな用地買収や区画整理など、時間のかかる手続きを取らずに、市所有の競馬場跡地をそのまま転用する形で市営住宅の建設が進められ、楕円形の街路が形成された。その後、競馬場跡地の内外の土地にも住宅が形成されたため、住宅街の中に競馬場の走路がそのまま街路として残る結果となった。

今後の課題として、松江以外の競馬場跡地の土地利用の状況について調べる必要がある。表-1に示すように、完全でないものの他の競馬場跡地においても走路の痕跡が確認できるものが数多くあるため、用地買収の範囲、土地の所有形態、転用の経緯等、その要因について調査する必要がある。

謝辞：本研究を遂行するにあたって資料の収集、各種問い合わせにご協力頂いた松江市役所都市整備部土木課の丹羽野真也氏、都市整備部都市計画課の寺沢祥司氏、中嶋一雅氏、都市整備部建築課の岡本泰明氏、松江市教育委員会文化財課史料編纂室の沼本龍氏、松江市議会事務局総務課の土井晃一氏、乃木公民館の中島一雄館長、大和稔氏、前館長の山野矩明氏、塩谷実氏、安達不動産の安達富嗣氏、松江地方方法務局島根県立図書館ならびに松江市立図書館の方々に厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- 1) 地方競馬全国協会：地方競馬史 第一巻，1972.
- 2) 松江市誌編纂委員会：松江市誌，1989.
- 3) 乃木郷土誌編纂委員会：乃木郷土誌，1999.
- 4) 前掲2)，p.237.
- 5) 松江市会録，1927.12.11.
- 6) 前掲3)，pp.438-440.
- 7) 山野矩明氏へのヒアリング調査による.
- 8) 前掲1)，p.317.
- 9) 島根県：新修 島根県史 通史篇3 現代，pp.21-22，1967.
- 10) 松江市誌編纂委員会：新修 松江市誌，pp.851-853，1962.
- 11) 島根新聞，1946.2.21.
- 12) 松江市広報調査課：松江市広報，第8号(1950)，臨時発刊第12号(1950)，第14号(1950)，第72号(1958)，第82号(1959)
- 13) 松江の歴史写真編纂委員会：松江今昔，p.36，1999.



写真-2：楕円形に立ち並ぶ市営住宅（出典：『松江今昔』<sup>13)</sup>）

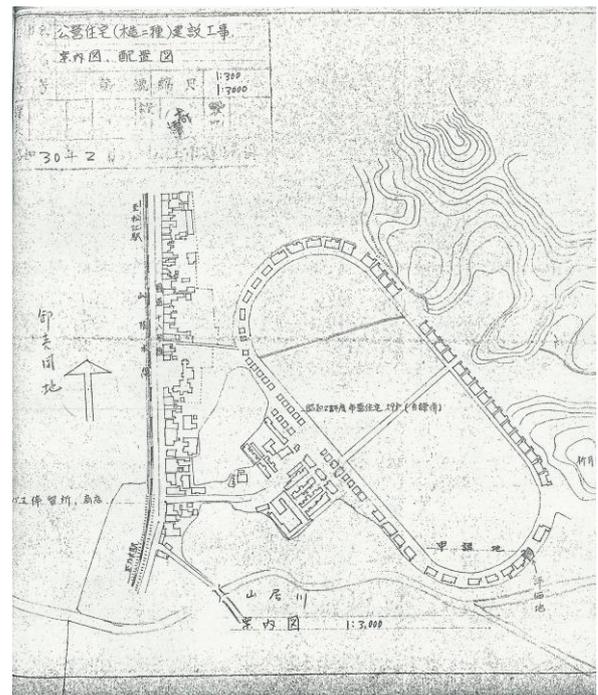


図-3：「公営住宅（木造二種）建設工事案内図，配置図」（所蔵：松江市役所）

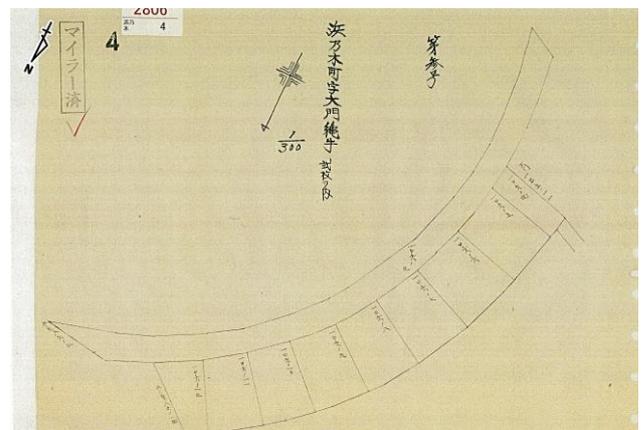


図-4：浜乃木町字大門繩手の土地台帳添付地図（所蔵：松江地方方法務局）